

自分の地区の歴史や自然をいっしょに見ていきませんか

岸本清明（ヒトハク地域研究員）

はじめに

私の住む加東市梶原はかつて30戸あまりの小さな農村だった。それが今では140戸にもなっている。どうして戸数が急激に増えたのか、引っ越してきた人たちは何を考えているのか、梶原の先人たちはどう暮らし、どんなふうにかつくりをしてきたのか、それを知らないとこれからの地区づくりはできないと思う。そこで梶原誌を編纂し、過去と現在、未来をつなごうと考えた。

1. 都市化の進む昨今

昭和49（1974）年に隣の地区に中国縦貫自動車道「滝野社インターチェンジ」が敷設された。それ以来梶原地区でも農地を潰してスーパーや銀行、アパートやマンション、団地などが建設され、一戸建ての家屋も続々と建てて都市化が急速に進んできた。そして、今340世帯が梶原地域に暮らしている。

そのうち梶原自治会に入っているのは140世帯である。自治会では共同で溝掃除をしたり、ゴミ拾いや草刈りをしたり、ゴミ収集の当番を交代でしたりしている。しかし、共同体意識は年々低下し、地区の行事や奉仕活動などに参加する人が年々減ってきている。また、自治会三役のなり手が減り、役員人事に毎年苦勞するようになってきた。

2. 自然も残ってはいるが

地区内には水田の広がる地域もあり、あぜ道にはスミレやタンポポなど季節の野草が咲き乱れ、シオカラトンボなどの昆虫やアマカエルなどの両生類、シマヘビなどの爬虫類、トビなどの鳥類もたくさんいる。また、地区の南端を加古川支流の千鳥川が流れていて、そこにはマガモなどの渡り鳥がやって来る。しかし、あぜ道を歩く人はほとんどいないし、植物や昆虫を観察する人もほとんどいない。千鳥川沿いをウォーキングしている人たちの多くは、川のカモ類にも関心が無い。

3. 梶原誌を作成し、自分たちの地区を住民のみんなに知ってもらおう

このままでは自治会活動の質が下がり、その存続も心配な状況になると危惧している。また、自然や環境に対する意識も低下していき、用水路や道路脇などにもゴミが散乱し、まだ残っている豊かな自然も荒廃していく心配もある。

そこで、地区の承認を受けて8人の編集委員が「梶原誌」を5年かけて編纂し、先人たちが苦勞して創り上げたものと、田や畦、川などの生物などを記録し、来年2月に刊行することを決めた。しかし、その時に厚い冊子を渡しても、多分目にしてはもらえないと考えた。そこで、梶原誌の書き上げた原稿を毎月1回、A4用紙印刷してファイルに綴じ各隣保で回覧し、梶原地区のことを順次知ってもらうようにしている。

4. 発行済みの原稿

2020年3月に原稿作成を始めてから今年2月までに、下記のような「村づくり、民俗・文化、歴史、自然環境」の編は合計164ページ、別紙の「梶原周辺の生物紹介」編は83ページとなった。

村づくり編

梶原の特色 各隣保と梶原周辺の地図 人口急増の梶原 梶原に引っ越してきた
梶原を流れる用水路①② 旅行による村づくり 梶原のランド 新公民館の建設①② 県営梶原
団地建設 豪雨による水害 ゴミ問題 溝掃除・クリーン活動 三世代交流会 梶原公民館の活用

梶原子ども会 加東市消防団梶原分団 梶原地域活動協議会①② 梶原老人会 グラウンドゴルフ
4 隣保の取り組み 6 隣保ができた経緯と現状 梶原で町会・市議員になった人 新宮神社・大歳
神社・秋葉神社と梶原 観音堂

民俗・文化編

梶原散歩思い出話 70年前の婚礼 約70年前の嫁の生活 昔の自宅での出産 美容師の見た婚礼
①② 梶原と葬儀 餅つきとおせち料理 昔の梶原と夏 昭和30年頃の冬の生活 昭和40年代の
小学生 ごちそうや遊びなどの今と昔の違い 梶原と文化 梶原と方言①② 播州弁アンケート
家紋 迷信

歴史編

梶原の古代 穂積の里 先人は義経と弁慶を見たか 江戸時代の梶原 赤穂義士祭 加古川川筋騒
動 先祖は寺子屋に通ったか 村上塾 野取図 明治時代の梶原 昭和池と梶原 伊勢参り 梶原
の戦没者と戦争 梶原と戦争 戦争中の区長の仕事 播州織と梶原 社町民体育祭 千鳥川桜堤公
園 梶原の田から見た日本の農業 コロナ感染①②③④ 社小学校の廃校

自然環境編

千鳥川と梶原 水質調査結果とその分析 ホテルが戻ってきた 昔話から想像する千鳥川 千鳥川と
梶原 加古川が形成した社 加東の地質

別紙 梶原周辺の生物紹介

24年12月号までに写真を載せた野草は163種、野鳥は51種、昆虫100種、哺乳類6種、爬虫類6
種、魚類4種、両生類3種、クモ類3種、貝類3種である。

おわりに

これら原稿を作成するにあたり、編集委員は住民の方々といろいろ話をし、原稿を依頼したり、アンケートに協力してもらったりした。また、公民館にある歴代区長の記録した文書も読んだ。そうやって毎月2〜6ページの原稿を作成してきた。

その過程で、日々の暮らしを改善しようとする**個々人の地道な努力**、歴代自治会長たちが提案し住民が協力して実施した農道整備や水路改修、公民館改築など**住民主体の村づくり**、梶原地域活動協議会など**各種団体の取り組み**、これらが相まって地区が良くなってきたのだ。そこに県道「西脇三田線」と「梶原幹線」、「千鳥川桜堤公園」の新設、圃場整備事業など**国や県の施策**が加わって、地区の住環境が格段に整備されていった。それにスーパーなどの**商業施設**もできて、暮らしの利便性がみるみる良くなっていった。

このように歴史的、総合的に見てみると、私たちは**激変の時代に**生きていることが見えてきた。一方、市街化調整区域もあって水田が残り、地区の端を千鳥川が流れている。そこにはたくさんの草花が咲き、多種多様な昆虫がいる。そこに両生類や爬虫類、鳥類や哺乳類も暮らしていて、豊かな生態系を作っている。このような恵まれた地区に私たちは暮らしている。梶原誌を通して住民の方々と上記のような認識を共有し、みんなで地区をさらに良くしていけたらとは願うばかりである。

梶原

2024年10月1日
今月は「人口増の梶原」です。「梶原地域(梶原自治会と旧
梶原団地、梶原西と各種アパートをも含む)に、何人が住
んでいるか」ご存知ですか、今900人以上が暮らしている
のです。もともと梶原は40戸ありでしたから急増したの
です。その背景を探ってみましょう。 **梶原誌編集委員会**

はじめに

梶原という村がいつの時代から存在したのかは分らない。梶原公民館に元禄3年(1690)作成の梶原村田籍名寄帳と松岡が保管されている。そのことから少なくとも第5代将軍徳川綱吉の治世に、梶原は「農村」の形態で存在していたのは確かである。

1 梶原地域の人口

梶原地域は兵庫県加東市にあり面積は368,700㎡である。南側には加古川支流の千鳥川が流れていて、梶原地区は千鳥川の低水位位置から沖積平野にある。

梶原自治会の世帯数は近年急増し、梶原自治会の構成員ではないがミゼールマンションと各種アパート、梶原西地区と旧梶原団地の住人とを合わせると411世帯919人が、この梶原地域に暮らしている(2024年6月末)。



(梶原村田籍名寄帳)

2 人口急増の梶原自治会

右は梶原自治会の5年ごとの世帯数をグラフ化したものである。1985年頃から増え始め、2000年頃に急増している。それは1987年に6隣保が、2001年頃から7隣保に家が建ち始めた。その他にも梶原に家を建てる人がどんどん増えていったからである。



(梶原自治会協議会資料の記録から作成した世帯数のグラフ)

3 都市計画図面に見る梶原地域

梶原地域北部には県道「西脇三田線」①が東西に、西部には県道「東古瀬橋線」②(旧国道17号線)が南北に走っている。それに県道東古瀬橋線のサックスレイク社の南側から県道西脇三田線に接続する「梶原幹線」③がある。なお梶原公民館前を南北に走る細い道は昔梶原のメインストリートだった。